

第十二日目

師 範：藤原道長は三男坊でしたが，995年に兄ふたりが死んでしまいました。
家の財産や地位を引き継ぐことになり，おいの道隆と争いました。
この争いに勝って右大臣となり，氏(うじ)の長者(藤原氏の長のこと)を継ぎました。
翌年に左大臣になりました。
娘の彰子は中宮になり，妍子も中宮になりました。
ついに道長は1016年に摂政となりました。このとき49歳。
しかし翌年には息子の頼通に摂政を譲ってしまいます。
1018年に娘の威子の中宮として，一家で三人のきさきを出すという最盛期を築きました。「この世をば我が世とぞ思ふ…」と歌ったといひます。
その9年後に阿弥陀仏にすがりながら，道長は死んでしまいます。



1016年 藤原道長が摂政になる。

この摂関政治の全盛期を示す年を覚えましょう。

コン太：10をどう言うかで，困りました。



「遠い昔道長摂政全盛期」

としました。「とお」は10，「い」は1，「む」は6，これで1016。

師 範：語呂もよく，ポイントの言葉もみな入っているね。

「とおいむかし」とはうまく言えましたね。

息子の頼通は，1052年が仏教の末法に入る年ということで，宇治に平等院鳳凰堂(ほうおうどう)を建てました。「地上の極楽」といわれるようなものでしたが，摂関政治の全盛期を感じさせます。

ところで日本の仏教にとって52という年は不思議に縁のある年です。

百済から日本に仏教が伝えられたのが 538年(552年説もあり)。

大仏の開眼供養が行われたのが200年後の752年。

末法元年・平等院鳳凰堂が300年後の 1052年。

というビッグなことがあった年ですね。



